

太陽の子

2024年 7月 No.188

夏の号

発行

日立市助川町5-14-8

TEL(23)2620 FAX(33)9150

ホームページ <http://www.taiyonoie.com>

Eメール npo@taiyonoie.com

NPO法人 日立太陽の家

日立重症心身障害児(者)を守る会

日立太陽の家支える会



初夏の青空の下、NPO 法人日立太陽の家の前に集まり写真を撮りました。外装工事が終了して建物もみんなの笑顔もピカピカに輝いています。

地球は青かった

日立市太陽の家 管理者 菊地 祐二

先日、日立天球劇場へ行って、青く美しい太陽系の惑星・地球の映像を見てきました。かつて宇宙飛行士の毛利さんが初めての宇宙飛行を終えた後の会見で「地球には国境線などありませんでした」の言葉に、感銘を受けたことを思い出しました。

今年4月から、障害者差別解消法が変わり、障害のある人への合理的配慮の提供が義務化されました。障害のある人もない人も互いにその人らしさを認め合いながら、共生社会を実現することを目指しています。差別や偏見はいつの時代でもとりざたされてきました。古くは1981年国際障害者年の完全参加と平等や、ノーマライゼーション＝障害者を特別視するのではなく障害のない人と同じように社会で暮らしているようにしようという考え方が浸透していきました。私はその思想に魅力を感じ、福祉の道を目指そうと思えるきっかけになりました。

その後も、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、インクルージョン等の考え方が生まれてきました。最近ではジェンダーという言葉をよく耳にします。男か女かの性別が差別に繋がっていく、もっと平等であるべきとの主張に、私自身も子育てや家事は妻が中心であるべきと決めつけていたように思います。いやいや、もっとグローバル視点で見ると、女性の人身売買、子供の結婚等、世界では深刻な事態が日常的に起こっている。とても恐怖を禁じ得ません。更に今、SDGs(持続可能な開発目標)の言葉が浸透してきています。世界中にある環境問題・差別・貧困・人権問題といった課題を2030年までに解決していくという計画・目標のことです。

世界中の人達が、青く輝いている地球を見れば、戦争や人権問題が、ましてや障害者差別や虐待が、いかに無意味なことか、もっと大きな視点で物事を捉えることが出来るかもしれません。

職 員 リ レ ー

今を大切に

— 未来につなげる

支援を考えながら—

母子療育ホーム 言語聴覚士

奥村 知子

太陽の家に入職して一年が過ぎました。振り返ってみると、この一年はただただ新しい世界に慣れることに精一杯で、不安になる時もありました。そんな私を後押ししてくれたのが、ホームのこどもたちの笑顔と元気パワーでした。関わりの中で見せてくれる無邪気な笑顔、「できたー」という喜びを分かち合える瞬間、難しい課題にも懸命に向き合い日々成長を見せてくれるこどもたちの姿に励まされ、いつしか「今日はどんな一日になるかな」と一緒に過ごせる時間を楽しみに待つ私がいきました。

さて、言語聴覚士の役割として、日々二つのことを考えています。一つ目は、

個々に合わせたコミュニケーションの獲得・拡大への支援です。コミュニケーションには色々ありますが、

思いを伝え合える心地よい時間を過ごしていただけるよう、支援の在り方を一緒に考えていきたいと思っています。またホームのこどもたちへは「今」できることに丁寧に関わりながらも、その先にある社会的自立を見据え、その子らしく生活できるように支援を進めていきたいと考えています。二つ目は摂食・嚥下に関することです。まず誤嚥性肺炎の予防として、口の環境を整えること、唾液を上手に処理できることが生涯大切に なります。また長い期間、安心・安全に食事を摂るためにも姿勢・食形態・介助方法などを他職種と連携を取りながら考えていく必要があると考えています。

太陽の家の職員は、「利用

者の方のために」ということを一番に考えていると感じています。その仲間に入っていたいただいた縁に感謝し、出会えた皆さんとの日々を大切に過ごしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

元氣なしの木学園です

しいの木学園

今橋 由子

最近、私がNPO法人日立太陽の家の居宅介護事業所で働き始めた頃の子供たちは何をしていたかとふと思ひ、保育園児で可愛かった息子が今は反抗期真っ只中の中学3年生になつている事実が気がつき、苦笑いをしました。

現在は、しいの木学園での勤務となり担当している畑班では、天気や気温が安定せず、自然相手の作業の難しさを実感しています。数年前は、畑にとても詳しい方に教えてもらいながら作業していました（感謝）。種を蒔けば育つのが当たり

前と思っていました。今では種も苗も、なぜか枯れ果て消えてなくなってしまう、大きくならない、という不思議に直面しています（畑の反抗期か……）。

そして、利用者さんその日のコンディションで動きたくないと目で訴えかけたり、作業場所以外に移動してしまう利用者さんや若い利用者さんについて、体力が有り余って力仕事（穴掘り）も率先して作業してくれたり個性豊かな利用者さんと一緒に楽しい時間を過ごしています。これからも、みんなで蒔いた種がたくさん発芽して花を咲かせ、実を付けて、畑にたくさん野菜が育つことを祈りつつ、みんなで頑張っていきたいと思っています。



おいしかった

給食部 穂積 とし子

ひまわり学園の利用者さんの給食では、極刻み、刻み、一口大と食べやすくカットして、一緒に食事をして、おいしそうに食べている様子を見ることが出来ました。

今では、給食部として全施設の食事を作っています。障害の度合いによっては、サラサラ食、とろみ食、ムース食と種類が増え、不安がいっぱいでした。一緒に食事が出来ないのに食事中にうかがいます。完食して笑顔になっていたり、ちょっと好きではない献立だと下をむいてしまします。そんな姿を見るのも楽しみの一つです。

「おいしかった」

と言われたりすると明日もがんばって作ろうと思います。給食部はこれから利用者さん、職員さんに喜んでもらえる給食を提供していきたいと思っています。

笑顔と感謝

令和六年度を迎えて

日立重症心身障害児者を守る会会長 藤 枝 利 彰

日立守る会会員の皆様、日頃より当会へのご理解と、ご支援を賜り心より御礼申し上げます。新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行し、徐々に日常生活での規制が緩和されているように感じますが、重症心身障害児者やその家族を取り巻く環境は、まだまだ、気の抜けない毎日が続いています。コロナ禍がまだ収まっていない様で、最近日立市の病院に診察に行くとコロナの検査をしてから診察を行っている病院もあるそうですので十分気を付けて下さい。

※令和六年度の主な行事
①日立重症心身障害児（者）を守る会総会（鳩が丘さくら福祉センター 多用途ホール）

・令和六年四月二十日に来賓三名・会計監査員二名・会員十三名の参加で開催されました。
・令和五年度の事業報告、決算報告・令和六年度の事業計画、予算計画等が審議され承認されました。また、今年役員改選の年であり、一名減の十名が選任承認されました。
（令和六年四月から令和八年三月までの二年間）
②茨城県重症心身障害児（者）を守る会総会（鳩が丘さくら福祉センター多用途ホール）
・令和六年六月一日（土）来賓七名・会員十九名の参加で開催されました。
・令和五年度、六年度の各審議が行われ承認されました。また、今年役員改選の

年で、現在の役員が選任承認されました。
・茨城県福祉部障害福祉課企画Gによる『茨城県の障害者施策の動向について』の施策説明があり今後の活動に役立てたいと思います。
③全国重症心身障害児（者）を守る会関係
・全国重症心身障害児（者）を守る会全国大会・創立60周年記念大会開催
・令和六年九月二十八日（土）二十九（日）
・ところ：グラントニッコー東京 台場
・内容：式典、特別講演、記念講演等が行われる予定になっております。
・第三十四回関東・甲信越ブロック大会開催・新潟県大会
・令和六年十一月十六日（土）十七日（日）
・ところ：新潟県湯沢市・NASPニュー・オオタニ
・内容：式典・基調講演・分科会等の予定
・現在、理事会においてバスで大会に参加する事で協議中ですので、決定しましたら会員皆様も是非参加をお願いします。

願います。
④第五十五回日立市ふれあい運動会
・令和六年十月五日（土）
・ところ：日立池の川さくらアリーナ
⑤日立市太陽の家奉仕作業
・令和六年六月十五日（土）
・令和六年十一月九日（土）
・令和六年十一月九日（土）
・肢体不自由児の保護者との懇談会予定
以上が主な日立守る会の

ピカピカの一年生

母子療育ホーム保護者 岡部 文江

ホームに入所して5年になりました。ホームに入所するまでは経管栄養ですごしていました。チューブが抜けて先生に入れてもらう時の涙。母も一緒に泣いていたことを思い出します。入所した時には、チューブははずれていましたが、人見知り、イヤイヤの真最中で、ギャン泣き、見ないで！と大変でした。慣れて活動ができるようになるまで、1年近くかかりました。慣れたからは、どや顔でぼくを見てアピールの行事になっておりますので、会員の皆様の参加をお願い致します。
最後になりますが、重症心身障害児者やその家族、また当事者に関わって下さっています多くの方々や関係機関の方々のご理解とご支援を得て活動を進めて参る所存ですので、皆さま方、お力添えをよろしくお願い致します。



ひさしぶりの外出、たくさん運動して楽しめました。
またみんなで行きたいです。(ひまわり学園)



春の遠足でハレニコに行ってきました。みんなたくさん
身体を動かし、笑顔もいっぱいでした♪(母子療育ホーム)



プランターの寄せ植え定期便の準備が整いました。笑顔
を添えてお届けします。(しいの木学園)



ピザ職人になりきって今からピザを焼くところ、「美味し
くなあれ」と魔法をかけるよ。(太陽の家)

※写真撮影時のみマスクをはずしています



相談をさせて頂き、沢山悩みました。今でも悩み事は一緒に登校していますが、シクシクして頭が落ちそうなくらい下を向いて通っていました。今では楽しそうに通っていますが、のんびりやさんで、1つ行動するのに沢山の時間を費やします。声をかけなければ周りのことばかりに目をうばわれ、自分のことがままなりません。心配事はつきません。それでもお友達や先生など、沢山の人に支えられ、凜音は成長していつてくれることだと思います。

凜音の成長が嬉しくもあり、ちよっぴり淋しい母ですが、これからも親子共々よろしくお願い致します。

(前頁より)

お知らせ

◎二〇二四年度

NPO法人日立太陽の家

利用者総数 三百八十四名

男性 二百二十一名

女性 百六十三名

ご寄付ありがとうございました

○次の方から寄付を頂きました(敬称略) 三月～五月

黒澤弘明 佐藤芳昭

藤枝利彰 小林修

日立太陽の家支える会

日立太陽の家

ボランティアグループ

澤島供弘・京子

○次の方から物品の寄贈がありました

椎名将光

(敬称略) 三月～五月

大森健二

吉田博美

編集後記

一瞬、一瞬が重なり作られた、歴史、思い、全てがひとつになり、形になると感謝が生まれる。これからどうぞよろしくお願いします。

(K記)